

奨励賞

○設計者

玉置 順

- 大阪府建築士会
- 一級建築士事務所 玉置アトリエ



○寺院・仏閣 (宗教施設)

深川不動堂

- 東京都江東区富岡

選評

深川不動堂は、現代に生きつづける宗教建築である。木造の旧本堂に接するかたちでこの新本堂は計画され、両者はつながった一体の空間として用いられる。

新本堂の中心をなす、スリバチ状に下がった場所に護摩壇が設けられ、毎日ここで祈祷が行われる。この護摩壇を取り囲む周囲地下には、祈りの回廊と名づけられた廊下が巡っており、その壁面にはLED照明で照らされる「クリスタル五輪塔」というガラスの小塔が並ぶ。この五輪塔を寄進するための喜捨が、建物の建設費用となった。

新本堂外壁は、不動明王の真言である梵字24字をアルミ铸造したパネルが外装に用いられ、現代的な寺院建築の表情を演出している。銅瓦葺き入母屋造の旧本堂にこの新本堂の直方体の外壁が並ぶことによって、不動堂が現代に生きつづけていることが示される。この外壁の一部は可動式になっており、節分の際には豆まきのステージともなる。

複雑な増築を行い、内外ともに新旧の空間を組み合わせさせて使いつづける姿勢は、この建物を解りにくくしているが、逆にその複雑さのなかに建物のバイタリティが感じられる。現代に生きる宗教建築のあり方を示した建築として、その姿勢を評価すべきであろう。

(鈴木博之)



A



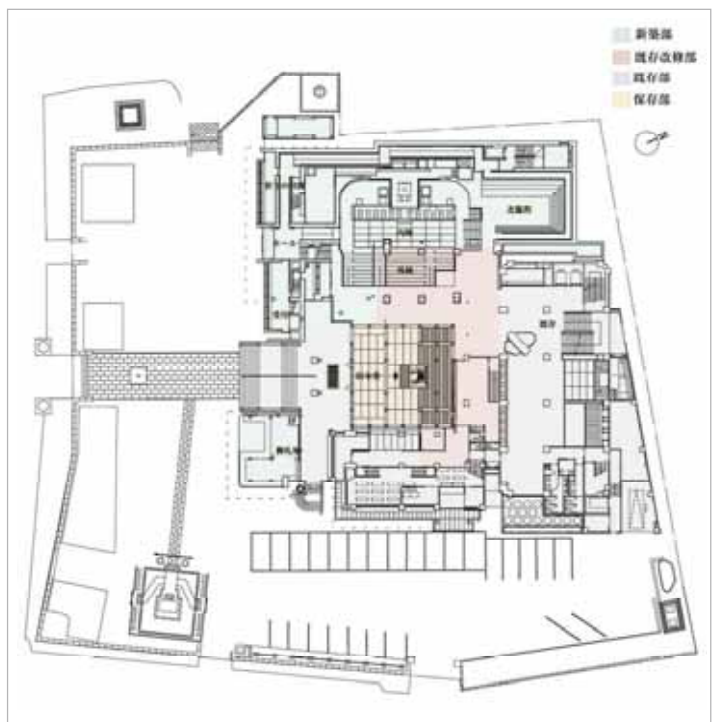
B



C



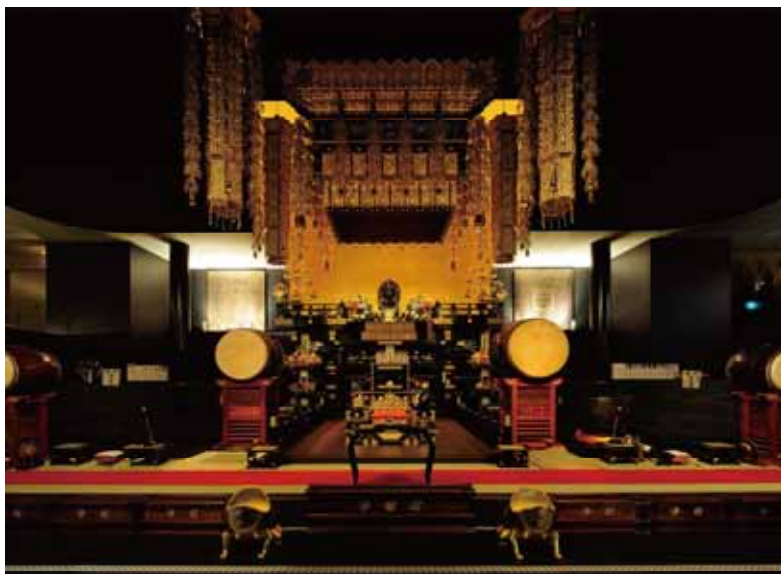
D



平面図



E



F



G



H

- A : 外観。境内正面には木造の旧本堂(文化財)があり、新本堂(梵字の外観)はその西側にある
- B : 建物外観に用いた梵字。不動明王のご真言は24文字
- C : 正面が開く梵字壁
- D : 梵字壁は奥側へスライドして節分のときは豆まきのステージになる
- E : 新本堂内陣。既存建物の主階を連続させ一体の建物として、そこにスリパチ状の内陣外陣を設けた。下階(内陣)には境内から直接入ることができる
- F : 内陣正面。内陣の上部は墨黒に塗り込められた吹き抜け。須弥壇上の金色の結界と天蓋が正面性をつくる
- G : 外陣は階段席。天井の低い部分は既存建物の改装。柱など構造躯体を利用している
- H : 一万基の五輪塔が輝く祈りの回廊

● 構造・階数：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、地上3階建て、地下1階 ● 延床面積：1,683.58㎡ ● 竣工：平成22年12月20日
 ● 敷地面積：5,217.29㎡ ● 建築面積：837.26㎡ ● 構造設計：TIS&PARTNERS ● 設備設計：明野設備研究所 ● 照明設計：ぼんぼり光環境計画

写真撮影：杉野圭